

若掘りゴボウの夏まき秋どり新作型の栽培法

豊前分場

1 背景、目的

福岡県産の若掘りゴボウは、8月下旬まきの11月下旬収穫から3月まきの6月収穫までありますが、7月～8月中旬まきでは高温による出芽や苗立ちの不良と土壌乾燥による岐根の発生によって生産が不安定であることから、この時期でも安定して生産できる栽培法の確立が求められています。

そこで、地温を抑制する白黒ダブルマルチの利用技術や岐根を防止するかん水法、高温でも出芽が安定する種子処理法を開発しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 白黒ダブルマルチを利用すると日中の地温抑制効果が高くなり、黒ポリマルチと比較して、高温期におけるゴボウの苗立率が向上します(図1、一部データ略)。
- 2) かん水開始点がPF2.0でのかん水は、さらに乾燥したPF2.2でのかん水よりも岐根の発生が少なくなります。また、白黒ダブルマルチと組み合わせることによって、収穫時の根重が約2倍に増加します(図2、一部データ略)。
- 3) 白黒ダブルマルチとかん水開始点PF2.0での散水かん水に、高温でも生育が優れる‘東北理想’を用いることで夏場の収量が向上します。さらに、一年で最も地温が高くて収量が不安定な7月下旬まきでは、高温での出芽が安定する吸水種子の高温処理(40℃、24時間)を組み合わせることで、無処理に比べて出芽や苗立ちが安定し、収量が約60%増加します(図3、一部データ略)。

3 主要なデータなど



図1 白黒ダブルマルチ(左)と黒ポリマルチ(右)における苗立ちと生育の違い



図2 かん水開始点PF2.0(左、適性)とPF2.2(右、乾燥)で管理したゴボウの岐根発生状況

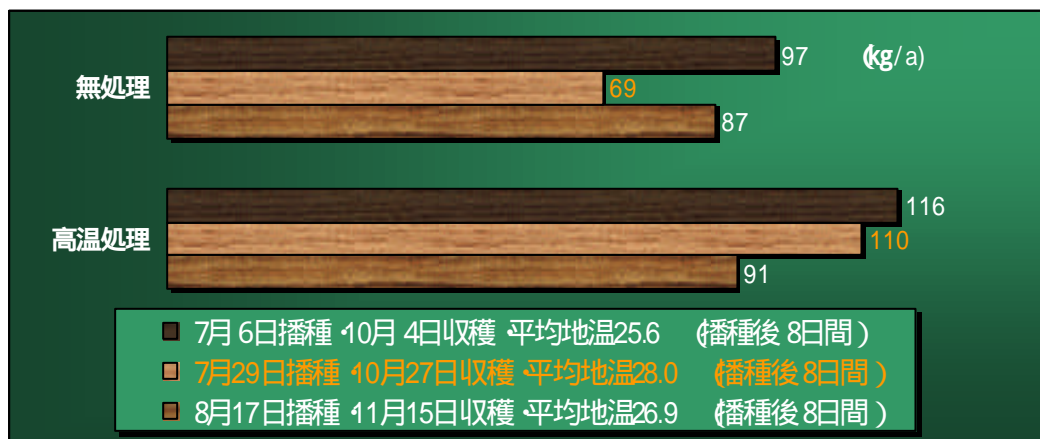


図3 吸水種子を高温処理(40℃、24時間)した夏まきゴボウの収量

注) 品種、マルチ資材及びかん水管理: '東北理想'、白黒ダブルマルチ、かん水開始点 PF2.0 での散水かん水